

■ 裏磐梯の水 ■

「今日、どこどこに水が湧いたらしいよ!!」とか「象の後をついていくと、水場にありつけるよ!!」などの会話はしたことないですよ。

日本は水大国で、飲み水に事欠くことは、まずありません。それは、しっかりと作られた浄化システムがあることが最も大きな理由です。しかし、その前に日本の山々の力が大きな役目を果たしていることを忘れてはなりません。世界遺産で知られる白神山地のブナの森は、素晴らしい水を生み、その水は生き物たちをはぐくみます。



百貫清水の湧水



小野川不動滝

磐梯山や吾妻山周辺も同じです。豊かなブナなどの森が、雨を蓄え、生き物に様々な恩恵を与えてくれます。デコ平湿原にある百貫清水は一年を通して水が湧き出ている、今でも生活用水として使われています。

水の恩恵は、素晴らしい景色も生み出します。たとえば、五色沼が青く見えるのは、磐梯山で生まれた水と地下から湧き出る温泉水などが景観のもととなっています。それぞれ異なる水源からなる小野川不動滝や達沢不動滝、布滝などは、どれも素晴らしい景観が楽しめます。

史跡めぐりや景勝地めぐり、食巡りやトレッキングなど、磐梯・猪苗代地域は楽しみが、てんこ盛りです。その一つに、『水めぐり』を加えてみませんか？

■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

春の花が一段落し、草木の緑が濃くなってきた頃、道路脇や山の斜面などに、突然、白い“何か”が目立つようになります。近づいて見ると、葉っぱのような形をしていて、緑色の部分もあったり、全体が白かったりします。

さて、この白いモノは何でしょう？

- ①鳥のフンで汚れた葉っぱ
- ②葉っぱとそっくりな花
- ③白色に変色した葉っぱ
- ④森で仕事をする人がつけたペンキの目印



正解は、③番です。この白いモノは「花が咲き、変色したマタタビの葉っぱ」です。陽が当たらなくて色素が抜けた訳ではありません。マタタビたちは花を咲かせる頃、葉っぱを白くして虫に「来て!」とアピールします。ではその花はどこでしょう？甘い、いい香りがするのに人間は気づきにくいようです。葉のかけを探してみてください。



ところがもう一つ、裏磐梯にはいつでも白い葉っぱが見られる場所があります。五色沼湖沼群の一つ、青沼のほとりです。これは沼の水に溶けている物質が葉っぱについて乾いたもの。美しいブルーに見える青沼に、白い物質が溶けているとはなんとも不思議ですね。

※裏磐梯にあるのは「ミヤママタタビ」というマタタビ。ピンク色の葉もあります。さてこれはどんな意味があるのでしょうか…？